

第6章 施策・事業および実施主体

計画の目標を達成するため、次の施策等を鉄道事業再構築実施計画に位置づけ、関係者が一体となって取り組む。

施策1 利便性の向上

(1) 誰もが利用しやすいダイヤの編成【並行在来線会社（並在会社）】

経営分離後は、本県単独の会社が普通列車を中心に運行することとなるため、ダイヤを自由に設定できる範囲が拡大する。並行在来線区間の普通列車は主に通勤・通学に利用されており、この時間帯の利便性を高める施策など、利用しやすく、分かりやすいダイヤに改める。

また、経営分離後は、現在の関西・中京方面からの特急列車が敦賀駅までの運行となることから、敦賀駅での乗換利便性の確保や在来線駅と新幹線駅のアクセス改善にも配慮する。

① 運行本数

利用者が多い通勤・通学時間帯の「福井・芦原温泉間」「武生・福井間」を中心に増便を検討する。また、最も利用者が多い「武生・福井間」については、昼間においても、現行の毎時1本から2本への増便を検討するほか、「福井・金沢間」の増便についても、今後、I R いしかわ鉄道と調整を進める。

増便数は24本程度とし、区間全体の運行本数を126本/日程度とする方向で検討する。

※今後、ダイヤを精査するため本数は変動する可能性あり

② 快速列車の運行

所要時間の短縮により、通勤・通学のほか、現在の特急利用からの転移などにより、一定の需要が見込まれる「敦賀・福井間」において、増便扱いで8本程度の快速列車の新設を検討する。なお、快速列車は、沿線市町の主要駅への停車を想定し、「敦賀・福井間」で10分程度の時間短縮を図るなど、特急に準じた運行を目指す。

※具体的な停車駅については、今後、沿線市町と協議のうえ、開業までに決定

また、敦賀駅での並行在来線快速列車とJR特急、新快速等との接続利便性も考慮しダイヤを編成する。

③ 臨時便の運行

大規模集客イベント時などにおいては、臨時便の運行を検討する。

④ 利便性の高いダイヤ

新幹線やＪＲ在来線、地域鉄道やバスとの接続利便性を確保するとともに、可能な限り、毎時一定時間に駅を発着するパターン化を図るなど、分かりやすいダイヤを編成する。

⑤ ＩＲいしかわ鉄道との相互乗り入れ

福井・石川県境を跨ぐ乗客の利便性を確保するため、「福井・金沢間」において、ＩＲいしかわ鉄道線との間で相互乗り入れを実施する。

なお、具体的なダイヤについては、新幹線等との乗継ぎにも配慮しながら、増便や快速列車の導入、短編成化による運行の効率化等も含め、ＩＲいしかわ鉄道と調整する。

また、相互乗り入れの実施に伴い、車両運用（どの便をどの会社の車両で運用するか）、乗務員運用（各社の運転士・車掌がどの区間・便に乗務するか）についても協議する。

⑥ ＪＲ越美北線の運行形態

「福井・大野間」で運行されている全列車が福井駅発着となっていることから、並行在来線開業後も現在と同様、ＪＲの列車が福井駅まで直通で乗り入れる。

○想定ダイヤのイメージ（令和３年１０月時点）

	敦賀	武生	福井	芦原温泉	金沢
現行ダイヤ	47本	54本	59本	44本	
想定ダイヤ	56本	76本	64本	44本	
敦賀⇄福井	38本⇒ 44本				
敦賀⇄芦原温泉	7本⇒ 9本				
敦賀⇄金沢	2本⇒ 3本				
武生⇄福井		5本⇒ 18本			
武生⇄芦原温泉		1本⇒ 1本			
武生⇄金沢		1本⇒ 1本			
福井⇄芦原温泉			7本⇒ 10本		
福井⇄金沢			41本⇒ 40本		

【時間帯ごとの利便性向上策のイメージ】

- ・朝（6～8時台）：福井発着本数を現行19本から26本に増便（うち4本は福井・敦賀間の快速列車）
- ・夕（17～20時台）：福井発着本数を現行28本から32本に増便（うち4本は福井・敦賀間の快速列車）
- ・昼（9～14時台）：福井・武生間の運行本数を1本/時から2本/時に増便

(2) 観光・イベント列車の運行【並在公司、民間企業、沿線市町、県】

沿線市町で開かれるイベントや四季の催しに合わせた企画など、普通列車を活用したイベント列車の運行を検討する。

また、本県独自の特色ある観光列車を導入し、営業区間だけでなく J R 小浜線や越美北線への乗り入れ運行についても J R と協議を進める。

○観光列車の事例



えちごトキめきリゾート雪月花
(えちごトキめき鉄道)



観光列車「ながら」
(長良川鉄道)

(3) 誰もが利用しやすい環境づくり、駅サービスの向上【並在公司、沿線市町】

高齢者や学生、家族での利用など、利用者一人ひとりの目線に立ち、県民すべてが利用しやすい環境を整えるほか、今後更なる増加が見込まれる訪日外国人にとって利用しやすいサービス提供を検討する。

案内業務のほか、高齢者や介助を必要とされる方の乗降補助等を目的に、アテンダントを配置することを検討する。

また、各駅の待合室に、列車の運行状況が表示される端末を設置するなど、無人駅においても案内サービスが向上する方策を検討する。

○具体的施策の例

- ・ 高齢者向け：アテンダントなどによる乗降補助や案内等の実施
- ・ 学 生 向 け：帰宅時間帯を中心に社員・地元団体による見回り
- ・ 家 族 向 け：ベビールームやキッズスペースの設置
- ・ 外国人向け：多言語表記・案内放送
- ・ そ の 他：インターネット利用環境の整備
マナー向上キャンペーンの実施
他社線や路線バス等への乗換サインの充実 など

○利用しやすい環境づくりの例



キッズスペース（しなの鉄道 軽井沢駅）

○駅サービスの向上例



高齢者等の乗降補助（えちぜん鉄道）



運行状況表示ディスプレイ（あいの風とやま鉄道）

(4) 駅へのアクセス向上等【並在公司、沿線市町、県】

パーク&ライド駐車場の拡充や駐輪場の移設・新設などにより、駅へのアクセス向上を図る。

○具体的施策の例

- ・パーク&ライド駐車場や駐輪場の拡充
- ・バスなどの二次交通の充実と接続利便性の向上
- ・既存の駐輪場を利用しやすい位置（改札口付近など）に移設
- ・改札口の新設 など



パーク&ライド駐車場の新設
(あいの風とやま鉄道 石動駅)



駐輪場の新設
(IGRいわて銀河鉄道 厨川駅)

(5) 新駅の設置【並在公司、沿線市町、県】

利用者数の増加による収支の改善効果が見込まれる新駅について、沿線市町と十分な意思疎通を図りながら設置の検討を進める。

整備費用については、国庫（幹線鉄道等活性化事業費補助など）の活用を念頭に、県や地元市町による行政負担を基本とする。

また、新駅整備に併せて行われる、駅を中心とした地域づくり、まちづくりに協力する。

○設置に向けた標準的なスケジュール（あいの風とやま鉄道：高岡やぶなみ駅の例）

開業3年前：設置可能性調査（沿線市町）

開業2年前：基本設計（運営会社）

開業1年前：地域公共交通計画策定（設置市町）

～開業～

開業1年目：詳細設計（運営会社）

開業2年目以降：工事着手（運営会社、設置市町）

※開業前に詳細設計の実施が可能かJRと調整中



高岡やぶなみ駅（あいの風とやま鉄道）



巢子駅（IGRいわて銀河鉄道）

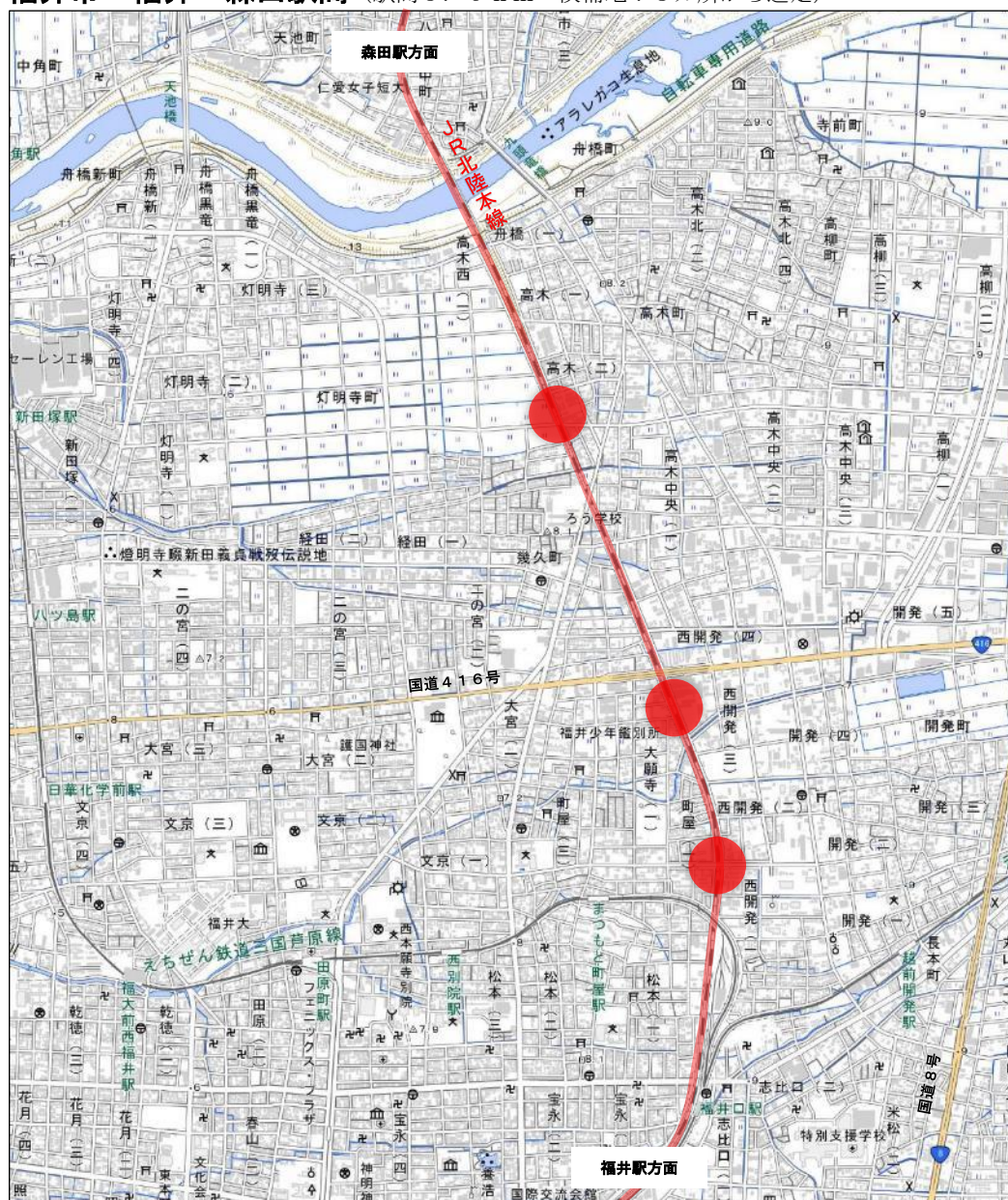
○今後の方針

当面、「福井・森田駅間」、「武生・鯖江駅間」は、設置に向けた検討を進める。

「王子保・武生駅間」については、越前市と連携し、並在会社（ハピラインふくい）において令和5年度に詳細設計・用地買収、令和6年度に工事着手する予定である。

新駅設置候補地

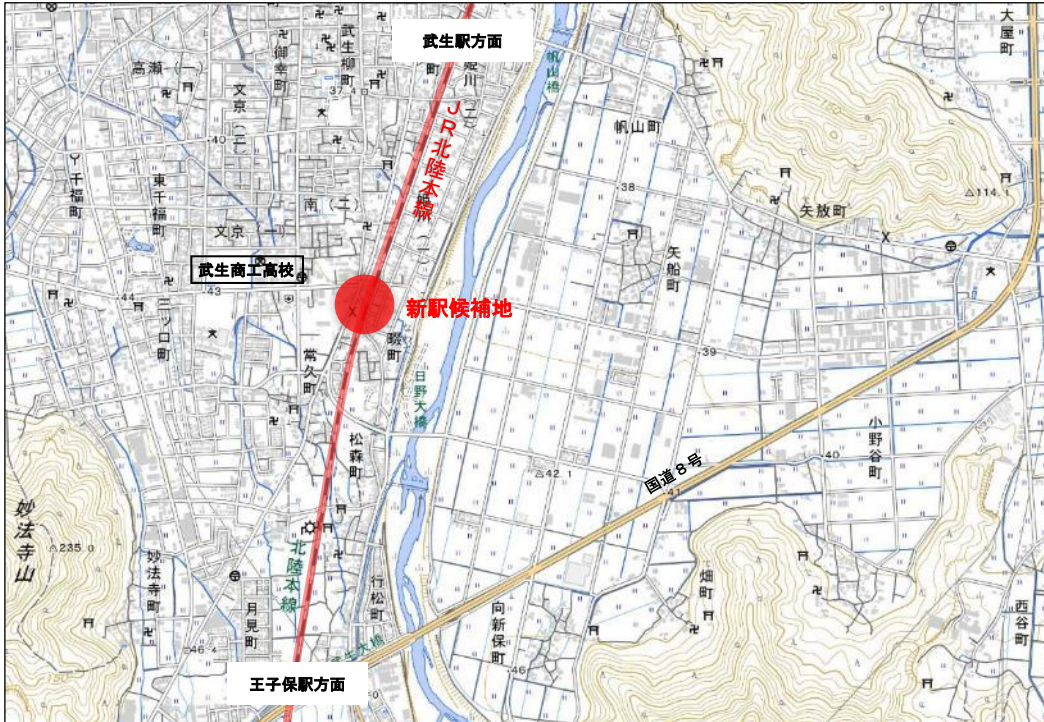
- ・福井市 福井・森田駅間（駅間5.9km 候補地：3カ所から選定）



・ 鯖江市 武生・鯖江駅間 (駅間5.2 km 候補地：サンドーム福井付近)



・越前市 王子保・武生駅間（駅間4.3 km 候補地：武生商工高校付近）



※「地理院地図（国土地理院）[<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>]」をもとに福井県作成

新駅の概要

事業目的	周辺居住者や武生商工高校生等の交通利便性を向上させるとともに、新たな利用者獲得により並在会社の収支改善を図る。
期待効果	鉄道の利用促進 駅を中心とした地域づくり・まちづくりの推進
事業内容	<p>実施内容：新駅舎の設計・工事〔並在会社〕 駅前広場やアクセス道路等の設計・工事〔越前市〕</p> <p>実施時期：令和5年度 詳細設計、用地買収（予定） 令和6年度 工事着手（予定）</p>  <p>※新駅設置可能性調査時のイメージ図であり、今後、変更の可能性あり</p>

施策2 駅を中心としたまちづくり

(1) 駅を中心に都市機能の集約や居住誘導【沿線市町、県】

少子・高齢化が進展する中、並行在来線は、主要な公共交通軸および都市機能の骨格軸としての役割を果たし、駅を中心に暮らしやすさを実感できる居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の誘導に寄与する。

(2) 既存駅のモデルチェンジ【並在会社、沿線市町、県、地域住民】

並行在来線会社と地域が連携し、使いやすく、楽しく、特徴ある駅へと改善を図るとともに、駅舎内の空きスペースの利活用などにより「地元から親しまれる駅」「行ってみたいくなる駅」へとモデルチェンジする。

なお、地域が中心になって日常的に駅舎を活用する場合において、必要に応じ沿線市町等に駅舎を譲渡するなどの対応も検討する。

○具体的施策の例

- ・ 地域活動の拠点化（地区集会場やイベントスペース等として開放）
- ・ 託児施設の設置
- ・ コワーキングスペース、自習室の設置
- ・ 学校・企業によるイベントの開催
- ・ 集客施設の設置（観光案内所や物産品販売所の設置）
- ・ 空きスペースへの飲食店等の誘致
- ・ 各駅の特徴付け（駅ごとに異なる植栽の実施、地元協力による駅舎のミュージアム化）



学生向け自習室（えちごトキめき鉄道 直江津駅）

(3) 駅・駅周辺のにぎわいづくり【並在公司、沿線市町、民間企業、地域住民】

イベントの実施や地元製品の販売、観光案内など、駅・駅周辺のにぎわいづくりに取り組む。

○具体的施策の例

- ・ イベントの実施：地域の祭りや遠足等での利用
近隣学生の教育の場として活用（高校生による物販等）
- ・ 貸切列車の運行：企業や自治会等への貸出
- ・ 地元製品の販売：駅舎空きスペースを活用した朝市・夕市等の開催
- ・ 周辺の観光案内：駅舎に周辺施設のPRブースを設置
- ・ 周辺施設との連携：駅を基点とした体験型ツアーの開催
鉄道利用者に近隣商店の特典付与



地元製品の販売ブース、周辺の観光案内（しなの鉄道 軽井沢駅）

施策3 地域鉄道など他の交通事業者との連携

(1) 地域鉄道等との連携【並在公司、地域鉄道事業者等、県】

福井鉄道およびえちぜん鉄道、JR、IRいしかわ鉄道と連携し、共通フリー切符など企画切符の発行や鉄道イベントの共同開催を検討する。

IRいしかわ鉄道とは、福井県、石川県も参加し、増便や快速列車、臨時列車の運行など県境をまたぐ利用者の利便性向上や、企画切符、イベントの実施など利用促進に向けた具体的な検討を進めていく。

(2) 交通事業者等との連携【並在公司、公共交通事業者】

バス会社など他の地域交通機関や観光施設、宿泊施設と連携した共同企画や旅行商品などを検討するほか、JRやIRいしかわ鉄道と連携した広域的な企画乗車券の発行等についても検討を進める。

○具体的施策の例

- ・ 一日フリー乗車券
- ・ 地域鉄道やバスなど他機関と連携した乗車券
- ・ 定期利用者に対する割引制度（家族と利用する際の割引など）
- ・ 沿線イベントと連携した乗車券
- ・ 観光施設や宿泊施設の優待サービス付き乗車券
- ・ 昼間割引乗車券 など

施策4 地域に親しまれる鉄道への転換

(1) 会社名の公募【並在公司、県民】

誰からも分かりやすく、長きに渡り親しまれる鉄道となるよう、並行在来線会社の正式社名を公募により決定する。

○社名公募の実施

令和3年12月：社名公募開始

令和4年 3月：社名内定・公表

令和4年 7月：正式社名を登記（新会社名：株式会社ハピラインふくい）

(2) 県民の参画【並在公司、県民、大学等】

並行在来線会社のキャラクターやロゴマークについて公募により決定するなど、県民が運営に参画できる機会を創出する。

また、利便性向上策や駅舎活用策などについて、積極的にアイデアを募る機会を設けるとともにクラウドファンディングによる企画も取り入れる。

さらには、産学連携の一環として、県内大学等と連携し、鉄道を利用した学びの場の提供や利用促進策の共同企画（駅舎デザインや改修等）など、将来の利用者となりうる学生をターゲットとした取組みも検討する。



森田駅ギャラリースペースでの展示
(仁愛女子短期大学)



えちぜん鉄道福井駅での展示
(福井工業大学)

(3) マイレール意識の醸成【並在公司、沿線市町、県】

駅周辺の自治会や学校等による環境美化や、地域住民に名誉駅長を委嘱するなど、駅を地域に密着した施設とすることなどにより、マイレール意識の醸成を図る。

(4) サポーターズクラブの設立【並在公司、地域住民、沿線市町、県】

サポーターズクラブを設立し、沿線住民や利用者が主体的に利用促進活動を実施する仕組みづくりを検討する。

事業実施スケジュール

※並行在来線会社：会社、地域住民：地域、民間企業：企業

施策1 利便性の向上

	事業（取組み）	実施主体	R3 3年前	R4 2年前	R5 開業年	R6 1年目	R7 2年目	R8 3年目	R9 4年目	R10 5年目	R11～ 6年目～
1	誰もが利用しやすいダイヤの編成	会社	企画・調整			実施					
2	観光・イベント列車の運行	会社、企業市町、県			企画・調整	車両手配等	運行開始				
3	誰もが利用しやすい環境づくり、駅サービスの向上	会社、市町	企画・調整	工事等	(順次) 運用開始						
4	駅へのアクセス向上等	会社、市町県		企画・調整	設計・工事等	(順次) 運用開始					
5	新駅の設置	会社、市町県	調査・調整			設計・工事等	(順次) 運用開始				

施策2 駅を中心としたまちづくり

	事業（取組み）	実施主体	R3 3年前	R4 2年前	R5 開業年	R6 1年目	R7 2年目	R8 3年目	R9 4年目	R10 5年目	R11～ 6年目～
1	駅を中心に都市機能の集約や居住誘導	市町、県	実施								
2	既存駅のモデルチェンジ	会社、市町県、地域			企画・調整	(順次) 実施					
3	駅・駅周辺のにぎわいづくり	会社、市町企業、地域		企画・試行	実施						

施策3 地域鉄道など他の交通事業者との連携

	事業（取組み）	実施主体	R3 3年前	R4 2年前	R5 開業年	R6 1年目	R7 2年目	R8 3年目	R9 4年目	R10 5年目	R11～ 6年目～
1	地域鉄道等との連携	会社、県地鉄事業者	企画・調整・試行			実施					
2	交通事業者等との連携	会社交通事業者		企画・調整	実施						

施策4 地域に親しまれる鉄道への転換

	事業（取組み）	実施主体	R3 3年前	R4 2年前	R5 開業年	R6 1年目	R7 2年目	R8 3年目	R9 4年目	R10 5年目	R11～ 6年目～
1	社名の公募	会社、県民	公募	決定							
2	県民の参画	会社、県民大学等	ロゴマーク等 公募	決定	その他の企画	(順次) 企画・実施					
3	マイレール意識の醸成	会社、市町県	実施								
4	サポーターズクラブの設立	会社、地域市町、県		設立準備	設立・活動						

※スケジュールは現時点の想定であり、今後変更になる可能性がある。